



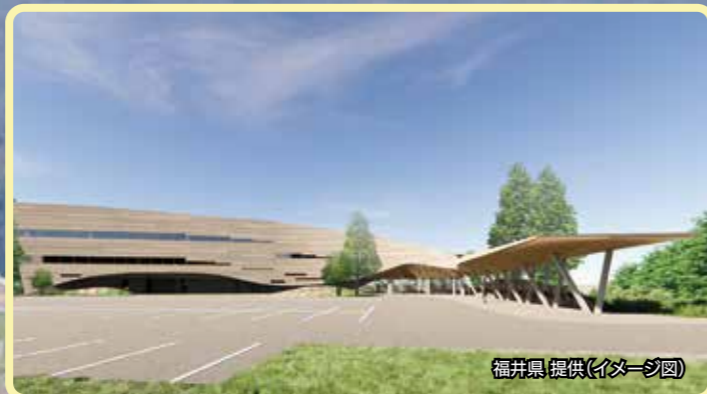
市民が楽しみ 世界に誇れる かつやま恐竜の森

Park-PFI事業で再整備



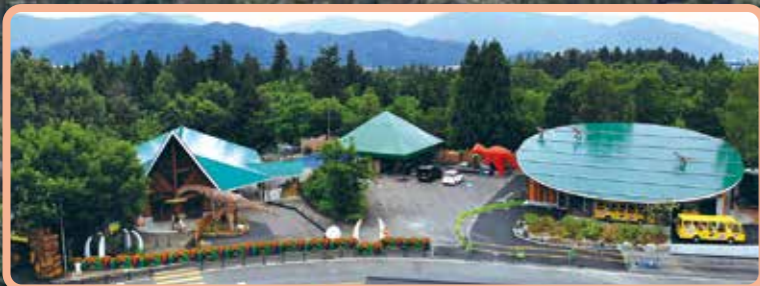
屋根付き広場（上記写真）のほか、宿泊施設、飲食物販施設、遊戯施設を整備予定

福井県立大学恐竜学部(仮称) 地層をモチーフにした学部棟



福井県 提供(イメージ図)

かつやまディノパークリニューアル



恐竜をテーマにした 複合遊具の改修



(イメージ図)

かつやま恐竜の森（長尾山総合公園）にある福井県立恐竜博物館は、7月14日(金)に平成12年の開館以来、最大のリニューアルを行います。そして、園内では博物館のリニューアルに併せ、かつやまディノパークでも大規模なリニューアルが行われるほか、恐竜をテーマにした複合遊具の改修、屋根付き広場の整備など園全体の魅力がますます高まっています。

今月の特集では、その内容を紹介します。



福井県 提供

福井県立恐竜博物館 リニューアル



福井県 提供(イメージ図)

『化石研究体験』



福井県 提供(イメージ図)

『大型3面スクリーン』
※特別展開催時を除く

Interieur

皆さんに愛される魅力ある公園へ

今回、恐竜博物館のリニューアルに併せて、かつやまディノパークもリニューアルオープンします。

まず入場ゲートですが、ゲートの位置を変更し、全長12mのカマサウルスが皆さんをお迎えします。また、新設したヴェロキ館は、巨大昆虫冒険ツアーの発着場だけでなく、全国各地の遊園地でも人気の『鏡の迷路』に恐竜が棲む森を融合させた魅力的なアトラクションとなっています。

かつやま恐竜の森は、世界の中でもトップクラスのポテンシャルを持った公園です。市民の皆さんに愛される魅力ある公園であるよう、自然を活用したアクティビティの提供を充実しつつ、いつ遊びに来て気持ちよく利用いただけるよう、職員一同、精いっぱい整備していきます。ぜひ遊びに来てください。



NPO法人
恐竜のまち勝山応援隊
かわじり すずむ
川尻 進 理事長

Interieur

恐竜のリアルを追及した施設に

今回のリニューアルのコンセプトは『リアルの体感体験』です。新しく増築した“小タマゴ”の建物内には、あたかも恐竜の時代に迷い込んだかのような“体感”ができる大型スクリーン（高さ9m×幅16m×3面）のほか、博物館の研究者が使っているCTスキャナーデータの操作や観察、化石クリーニングなどの“体験”メニューをとことんリアルにこだわって作り上げました。

また、常設展示でも日本初公開のミイラ化石を展示するほか、全身骨格を44体から50体に増やしたり、これまでの研究成果を展示物に反映したりするなど、何回訪れても楽しめる博物館となっています。市民の皆さんもぜひ博物館まで足を運んでいただき、これまでとの違いを発見して楽しんでみてください。

一緒に勝山を盛り上げていきましょう。



福井県立恐竜博物館
たにかわ ゆみこ
谷川 由美子 館長